

大流行の兆し はしか(麻疹)に感染しない方法

■ その1 はしかとは

はしかは、麻疹(ましん)ウイルスが引き起こす全身の病気です。高熱、咳、鼻水など風邪に似た症状が数日続いてから、赤く盛り上がった小さい発疹が全身に広がって大きくなり、暗赤色に変色した発疹の後が残った状態になります。高熱は約1週間続き、特効薬はありません。空気感染するため、非常に感染力が強く、はしかに対する免疫力の無い人が、はしか患者と同じ部屋にいれば、ほぼ必ず発症します。感染する期間は、発症1日前から発疹出現後4日後までの間で、感染から発症までの期間である潜伏期間は、10日から12日です。合併症は、中耳炎、気管支炎、肺炎、ノドが腫れるクループ症候群、脳炎、角膜の炎症で、場合によっては、死亡や後遺症の恐れもあります。また、少し免疫力があると、修飾麻疹(しゅうしょくましん)と言って、発疹が急に全身に広がらずに症状が進行するため、診断が難しいこともあります。

■ その2 はしかに対する免疫力

2006年からMR(麻疹・風疹)ワクチンの定期接種が行われており、2回接種した人は、感染しない可能性が高いです。1回接種や、接種歴が不明、はしかにかかったかどうか分からない場合は、はしかに対する抗体の測定をしておいた方がよいかもしれません。費用は3,000円から5,000円程度です。

■ その3 はしかの予防

まわりにはしか患者が絶対にいないと言えない以上、免疫力をつけるための予防接種が必要です。母子手帳で接種歴を確認しましょう。2回接種していれば、ひとまず安心ですが、1回であれば、もう1回ワクチンの接種をお願いします。また、はしかに対する抗体が、陰性または弱陽性という判定であれば、ワクチンを受けておきましょう。

■ その4 はしか患者に接触したときは

感染が疑われるときは、対策が2つあります。1つはワクチンで、接触から3日以内に接種します。もう1つは抗体を含む製剤を使用することで、接触から4日以上6日以内であれば、ガンマグロブリンという免疫の血液製剤を筋肉注射します。ただし、血液製剤の使用については、メリットとデメリットがあるので、医師とよく相談して使用してください。

現在、ワクチンの数が不足していますので、1~2歳の定期接種が優先されています。ワクチン不足を考えると、日頃からはしかに対しては大流行する前に対策をしておくことが大切です。

感染力が強いので、はしかと思ったら、事前に医療機関に連絡してから、受診しましょう。

[小児科 清益功浩]